

## 令和4年度第3回市民活動センター評価委員会 摘録

日 時：令和4年7月19日（火）午後1時30分～午後3時40分

場 所：京都市文化市民局地域自治推進室 会議室

出席者：

（委員、敬称略）中井 歩（京都産業大学法学部教授）＜委員長＞  
東郷 寛（近畿大学経営学部准教授）＜副委員長＞  
伊豆田千加（特定非営利活動法人子育ては親育て・みのりのもり劇場理事長）  
鈴木 ちよ（市民公募委員）  
梶井 大治（公認会計士）  
森本 純代（一般財団法人藤野家住宅保存会理事）

（事務局）京都市文化市民局地域自治推進室

地域コミュニティ活性化

・北部山間振興部長 廣瀬 智史

市民活動支援課長 永田 彰

市民活動支援係長 岡部 麻紀

担当係長 別所 隆男

担当 岩沢 真梨絵

傍聴者：3名

取材者：なし

議 事：（1）令和3年度市民活動総合センター評価報告書の検討  
（2）令和3年度いきいき市民活動センター評価報告書の検討

開催概要

### 1 開 会

### 2 議 事

#### （1）令和3年度市民活動総合センター評価報告書の検討

事務局から「令和3年度市民活動総合センターの管理運営についての評価報告（案）」について概要を説明後、評価項目ごとに達成度及び記載内容の検討を行った。

※ 各項目に対する委員個人の達成度評価及び意見を共有したうえで議論を進めた。

#### 【評価方法について】

（委員）

現在の評価方法では、AからEのいずれかひとつの評価をすることとされているが、例年、各委員の意見を踏まえ委員会としてひとつの評価をするのに苦慮しているところであり、「評価が分かれている」ことをそのまま評価とする方法もあると思う。次年度以降の評価方法を検討する際に、改めて考えたい。

(委員)

評価方法の見直しの検討でも課題となっているとおり、AとBの評価基準の違いが分かりにくいなど、5段階で評価をするのは難しい。また、評価と文章の内容の整合性が取れていないと、評価される側は納得できずモチベーションが下がってしまうと思う。加えて、コロナ禍という通常ではない状況において対応してもらっている点を、どのように評価に反映させるのか難しい。

(委員)

評価方法は来年度に向けてこれから見直すことになっているので、今回はこれまでと同様に、現行の枠組みの中で5段階評価をし、付帯意見の書き方で工夫すべきではないか。

(委員)

これまでも、AからEのどの評価をすべきかについては議論があり、文章評価を重視してきた。今回も同様の考え方にに基づき、5段階評価については各委員の評価の平均を基本とし、より良い指定管理を行ってもらえるような文章評価を行うこととする。

## 【基礎評価】

### <情報収集・提供>

(委員)

ホームページやSNSのアクセス数が増加しており、適切な情報提供が行えていることや、情報コーナーの有効利用を図ったことについては評価すべきだと考える。一方で、各団体を紹介する資料について改善を期待することも付帯意見として記載することとする。5段階の評価については、各委員の平均であるBとする。

### <相談>

(委員)

オンラインでの相談を充実させた点については評価が高い一方、利用者が少ないことが課題となっている。

(委員)

コンサルティングブックの発行等、これまでのノウハウの集大成は見られたが、現在のニーズをとらえた相談事業が行えているか、という点では課題が残る。今後の改善に期待を込めてC評価でもよいと思う。

(委員)

必要な事業は適切に実施されており、目標は達成したと言えるが、専門家相談についても、もう少し工夫ができると良いと思う。試行錯誤の段階にあることからC評価とする。

### <育成>

(委員)

委員の意見の中に、「スモールオフィスは「育成」の位置付けであるが、しみセンの支援を必要とせずオフィス機能のみを希望する団体が多いのであれば、スモールオフィスの位置付けそのものを見直すことはできないか」というものがある。スモールオフィスの位置付けを

見直す場合は、京都市が行うのか。

(事務局)

スモールオフィスについては、本市の仕様において「育成」の位置付けとしている。「育成」には、運営面でのサポートなどしみセンによる積極的な支援だけではなく、スタートアップの段階で必要となる事務所機能の提供も含まれる。このため、必ずしも位置付けそのものを見直さなければならないものではない。

(委員)

市民活動団体に対する育成に加え、多様な「市民活動支援公開講座」の開催等による市民活動団体からの情報を受け取る側の育成も行っており、この方向性は適切だと思う。

(事務局)

市民活動団体への育成については、講座のオンライン化やアーカイブ化などにより、各団体が一層利用しやすくなった点を各委員に評価いただいている。また、無関心層や潜在的関心層の育成については、市民活動支援公開講座など市民活動に興味をもってもらうきっかけとなる取組や、情報コーナーを活用した公開講座に関する展示などの工夫を多くの委員から評価いただいている。

(委員)

各委員の評価が分かれている項目については、全体のバランスも見て評価してはどうか。

(委員)

団体の育成については、これまでどおりしっかりと取り組んでもらっており、目標は達成したと言えるが、上回ると言えるほどの大きな変化がなかったためC評価とする。

#### <交流・連携>

(委員)

地域団体と市民活動団体とをつなぐ活動は、これまでになかった大きな変化であり、特に優れた成果と評価すべきだと思う。いきセンとの連携についてもラジオ番組への出演のコーディネートなど意義のある取組が行われており評価したい。いきセンとの連携については、もう少し踏み込んだ更なる連携も期待したいが、「しみセンつながるネット」をはじめとして、全体としては優れた取組が実施されておりA評価としたい。

#### <サービス向上>

(委員)

情報コーナーにおけるオンラインでの会議やイベントの利用促進がされており、多くの委員がB評価としている。

(委員)

コロナ禍での頑張りを認めてA評価でもよいと思う。

(委員)

A評価は、目標を「大きく」上回り「特に優れた」成果があったものである。よほど優れた取組でなければ、A評価にならないのではないか。コロナ禍において指定管理者として非常に努力されたことはよく分かるが、目標を大きく上回ったと評価すべきか悩ましい。

(事務局)

参考に、前年度の評価は、「情報収集・提供」がB、「相談」がB、「育成」がA、「交流・連携」がBであった。第1回の委員会でも議論があったように、特にAとBの差が分かりにくいことなどに加え、昨年度とは委員のメンバーが変わっており絶対的な基準を保つことは難しいと感じている。

(委員)

委員のメンバーも変わっており、年度ごとに評価が変わるのは仕方がない。前年度の評価に引っ張られる必要もないと思う。

(委員)

令和2年度は、コロナ禍という前例のない未曾有の事態に対して相当な努力が必要な中、できる限りの対応をしっかりと行っていたことから比較的高い評価になった。一方、コロナ禍2年目の令和3年度は、社会全体がウィズコロナの状況に順応し始めた頃であり、前年度と評価のレベルが多少異なるのは仕方がない。コロナ禍での頑張りを評価してA評価というのも理解できるが、コロナ禍2年目の社会状況等も踏まえ、今回は各委員の平均であるB評価にすることとする。

※その他の項目については、特段の意見はなかった。

## (2) 令和3年度いきいき市民活動センター評価報告書の検討

事務局から「令和3年度いきいき市民活動センターに係る管理運営についての評価報告(案)」について概要を説明後、「2 各センターの評価」及び「3 まとめ」の記載内容の検討を行った。

### 「2 各センターの評価」

#### <北いきいき市民活動センター>

(委員)

移転したことにより、ふれあい共生館の各団体と事業に取り組むことができおり、この点は評価が高い。これからも移転したメリットを生かすとともに、連携団体を固定化することなく多様な団体と連携して取り組んでいただきたいと思う。

#### <岡崎いきいき市民活動センター>

(委員)

いきセンの規模自体は大きくないが、周辺施設や周辺のイベントと連携するほか、「音楽」という指定管理者の強みを活かして手堅く活動しているという印象である。また、音楽だけではなく、ひきこもり支援などの社会課題にも踏み込んでいるところは新しい取組といえる。令和4年度のこれらの活動にも期待したい。

#### <左京東部いきいき市民活動センター>

(委員)

左京東部いきセンでは、これまでから多文化共生に取り組んできたところである。これま

では正直言って上手くいっていないところもあったかと思うが、令和3年度はかみ合いだし  
てきたかなと思う。

(事務局)

多文化共生については、外国人が多い左京区に立地するセンターとして、過去から取り組  
んでいるが、地域に住む外国籍の方の参加がなかったため、昨年の評価では課題として記載  
いただいた。令和3年度については、国際交流会館との連携や地元の方の参加などがあり、  
報告書に記載の評価となっている。

(委員)

各事業について報告書の内容からは良い取り組みであることが受け取れるが、添付の写真  
からは事業のイメージが伝わりにくかった。なお、「いきいき春の文化祭」については、写真  
からも事業のイメージが伝わり非常に良かった。

(事務局)

令和2年度から書類審査のみとしたことから、書類の見栄えで評価が決まってしまう  
ように様式を統一し、写真を貼付する場合はA4用紙1枚程度に収まるようにしており、そ  
の中で見せ方を工夫してもらっている。左京東部いきセンについては、冊子を添付するなど  
工夫されている。

(委員)

各いきセンとも定められた報告書の枚数にこだわってしまい写真の枚数も減っている  
ところがあるのではないかと。各いきセンに対しては報告書の枚数は定めるが、写真のレイアウト  
は任せるなどを改めて伝えた方がよいのではないかと。

(事務局)

来年度以降は、評価に当たり、より事業の雰囲気や伝わるような様式となるように検討す  
る。また、写真のレイアウトも含めて、各いきセンに他のいきセンの報告書も参考とするよ  
うに伝えるなどしていきたい。

#### <左京西部いきいき市民活動センター>

(委員)

かもがわデルタフェスティバルは、以前の夏祭りから実行委員会による地域の夏のイベン  
トへと発展した。自走化後もいきセンの事業との連携や未来のまちづくりなどに関して実行  
委員会と関わるなど、ある意味モデルケース的な取組をしているいきセンである。また、大  
学が近くにあるため、貸館としての稼働率が高く可能性が感じられる。

(委員)

かもがわデルタフェスティバルは、かつてのいきセンの活性化事業としての夏祭りから実  
行委員会による自走化がされており良いと思う。スターハウスなどは行政と教育機関がタッ  
グを組むなどステークホルダーの多様化が図られているもの良い。

#### <中京いきいき市民活動センター>

(委員)

コロナの1年目は事業への参加者が少なくなってしまうなどの課題があったが、この点は

かなり改善されているのが分かる。

(委員)

チラシがかわいくて見やすい。広報物が良くなっており、SNSなどのツールも上手に使うことができている。

(事務局)

中京いきセンは、昨年度から課題であった SNS を活用されている。また、センターを利用する学生団体や学生ボランティアと積極的に連携し、学生の意見を運営や企画に取り入れていると聞いている。さらに、令和4年度は大学生と一緒にSDGsをキーワードとした事業にも取り組まれている。

(委員)

駅近であり、立地も含めたポテンシャルは高く、改善の余地があると思っており、貸館の利用率の向上も含めて頑張ってもらいたい。

(委員)

広報物を作ると人に見てもらいたくなるものであり、SNSも含めた広報の強化が事業にとって良い循環が生まれるきっかけになっていると思う。

(委員)

自分もやったことがあるが、SNSもやりつつ、広報物を作成するというの結構大変なこと。加えて配架箇所を22箇所も増やすというのは相当に頑張っていると思う。

(委員)

情報発信の強化と市民活動活性化の強化が良い循環となっている。

(委員)

取組の方向性は良いと思うので、更なる市民活動支援の取組の拡大を期待したい。

#### <東山いきいき市民活動センター>

(委員)

従来からメディアセンターなどに取り組んでおり、オンラインに強くコロナ禍であっても強みを生かした事業が行われており評価が高い。なお、報告書では予算0円の事業がいくつかあったが、どのような内訳か把握しているか。

(事務局)

昨年度までの市民活動活性化事業は実際にかかった物件費のみを支払っており、人件費は指定管理料で賄っている。東山いきセンの予算、決算ともに0円の事業は、既存の機材の使用やWEBやSNSによる広報を行うことにより、人件費以外の物件費がかからなかったものと思われる。

#### <下京いきいき市民活動センター>

(委員)

下京は第3期から現指定管理者になり、当初の2年間でまいた種から芽が出てきていると感じられる。

いきセンのすぐ近くに市立芸大の移転が決まっており、地域的、人的面からも期待ができ

る。更なる取組の発展を期待したい。

#### <吉祥院いきいき市民活動センター>

(委員)

立地上、地域に根差した取組が多い吉祥院にとってこの2年間はコロナで苦しかったと思う。コロナの規制が緩和された場合であっても、これまでどおりのジャンボリーをするだけでなく、ジャンボリーの自走化や地域の課題解決等も含め、地域のまちづくりや市民活動の支援に目を向けた取組を進めてほしい。コロナが終わったので前と同じ状態に戻るのでは進化にはならない。

(委員)

現状、コロナ禍であるため、「まちぶらマップ」で地域を皆に「知って」もらうのは良いが、これを「参加」にどのようにつなげるのか。知ったうえでどうするのが課題であるが、他のセンターの取組で参考にできるものもあると思う。

#### <上鳥羽北部いきいき市民活動センター>

(委員)

立地に恵まれているとは言えないと思うが、JAと連携するなど地元密着で手堅く進めている印象である。

(委員)

事業に幅広い多世代の方が参加しているのが良い。地元密着の良い例かと思う。

(委員)

発行しているニューズレターについても、こどもが持って帰って親に見せるなどするのであれば、SNSなどよりもこのような形が良いのかなと思う。内容や目的に応じて適切な媒体を使用していただきたい。

#### <上鳥羽南部いきいき市民活動センター>

(委員)

評価でも指摘しているが講座型の事業が多く、特にシニア向けが多いという印象である。

(委員)

いきセンはカルチャーセンターではないということを理解してもらう必要がある。昨年度指摘した「協力団体が偏っている。」という点は一定改善されており、その点は評価している。

市民の実現したいことを丁寧に拾い上げ、それに伴走する姿勢が見られない。

(事務局)

例年、方向性については、同じような指摘になってしまっている。第4期からは更に市民活動の「支援」が求められるため、選定時の評価委員会の意見も指定管理者に伝えているところであるが、指定管理者もどのように進めるか苦慮しているようにも見受けられる。そのため、評価委員会での助言、指摘も踏まえて他のセンターも参考としてはどうかと合わせて伝えているところである。

(委員)

センターのやりたいことを一方的にやるというよりも、地元の困りごとを調査し、それを一緒に解決するような事業に取り組むことはできないのか。

(委員)

以前にいきセンに見学に行った際に水害の話などを聞いたが、地域課題ということで解決の糸口にはならないか。醍醐いきセンも上鳥羽南部と同様に企業が指定管理者であるが、センターでは課題発掘型の取組が行われており参考になると思う。

(委員)

指定管理者の職員が教えるのではなく、社会や地域の課題について知識・経験を持っている地元の人を探し出して、その知識・経験を地域の人につなげて自走化への支援を行うことがいきセンの役割である。全て自分たちでやる必要はないということを再度認識してほしい。

(委員)

「場を作るのが(いきセンの)サービス」であるということをもう一度言ってあげた方がよいのかもしれない。

(委員)

習うより慣れろではないが、他のいきセンで参考となる事業があるのであれば、いち参加者として参加してみるのもよいのかもしれない。

(委員)

指定管理者はそれぞれが独立して運営を行うので強制はできないが、他のセンターを参考にするのは有効である。まずは、同じ南区で交通の便が良くない中で地域に密着した取り組みが行われている吉祥院や上鳥羽北部など、条件が似ており参考にしやすいところが良いのではないかと。評価報告書については修正する必要はないが、評価報告書を指定管理者に伝える際に、本日、各委員から出た意見をあわせて伝えてもらいたい。

#### <久世いきいき市民活動センター>

(委員)

第4期からは貸館事業のみとなっており、利用率の増加が求められる中、事業を通じた利用者の増加が困難になるなど、今まで以上に厳しくなることが予想される。近くに貸館を営んでいる久世ふれあいセンターがあるが、差別化が必要である。料金設定はどのようになっているのか。

(事務局)

ホームページで確認した内容であるが、久世ふれあいセンターは1時間単位のいきセンとは異なり、午前、午後、夜間の3区分での料金となっている。施設が異なるため一概には言えないが、時間帯や利用時間によっては、久世ふれあいセンターの方が、料金が安くなる時間帯もあり、如何にして既存の利用者を逃さないか、そのうえで利用者を増やすかが課題である。

(委員)

現状のままでは利用率の増加は厳しいということは分かった。今後どのように利用促進を図っていくのか注視していきたい。

＜醍醐いきいき市民活動センター＞

特に指摘なし

＜伏見いきいき市民活動センター＞

(委員)

プロボノに着目し現役世代の取込みにもチャレンジしており、その成果に期待したい。テレワークが増えてくると、地元で生活、仕事をする人が増えてくる。これらの人は潜在的な活動層になる。結果についても発信してほしい。

(委員)

市民活動にとって現役層は一番の空白層である。この調査を踏まえどうなっていくのか、今後に期待したい。

「3 まとめ」

特に指摘なし

以上